

## 今治 — 面白味の無い工業の町？

アンジェラ・菊川

1993年の3月、私は結婚式を挙げるため、家族と二人の友達と今治に初めてやって来ました。その時、友達の一人が旅行ガイドブックに、今治が“面白くない工業の町”と紹介されているのを発見して、驚き困惑したのを覚えています。

結婚式の直後に、私たちは夫の職場のある東京に移動したので、今治については何も知らなかったのですが、その1年後今治に移り住んだ時、婉曲に言うなら、カルチャーショックを受けました。今治は、東京がイギリスと違うのと同じくらい、東京とも違っていました。つまり私は今治に住むことはできないと思ったのです。人はとても親切だったのですが、今治の町が陰鬱に感じられ、孤独感に苛まされました。10か月後にはUKに帰る決心をし、24年間故郷で過ごしました。そして2017年の9月、再び今治に戻ってきました。

今治は24年前に去った時とはすっかり変わっていました。大きな変化の一つは、人、特に子供が、もう私をじっと見ないようにになっていたことです。些細なことに聞こえるかも知れませんが、昔住んでいた時私が一番嫌なことだったのです。よく覚えているのは、旧市立図書館で本を読んでいた時のことです。7、8歳の30人以上の黄色い帽子を被った児童が、先生と図書館に入ってきました。彼らはすぐさま私の座っているテーブルの周りに集まってきて、無言で私を見つめ始めました。私は微笑もうとし、挨拶しましたが、彼らは返事もせず、更に見つめるのです。先生がやっと子供たちに止めるように言うまで、とても長い時間のように思いましたが、その時はすでに遅く、私は自分が怪物になったような気持ちをどうすることもできませんでした。

今は昔と大違いです；もう誰も私をじっと見たりしません、子供たちは朗らかに挨拶してくれるし、大人たちは気さくに話しかけてくれます。私を単なる外国人としてではなく、一個人として受け入れてくれているようです—私はこの変化をととてもありがたく思っています。

町についても、色々大きな変化があります。わたしは走ることが大好きなのですが、昔は舗装された道路が少ないのが不満でした。交通の激しい国道以外案に走れる道は余りありませんでした。今や何という変化でしょう！しまなみ海道とサイクリングのメッカになったおかげで、広く平らな舗装道路を、移り変わる風景を楽しみながら快適に走ることができます。私の好きなルートは、しまなみ海道はもちろんのこと、しまなみヒルズからアースパークへ通じる道です。現在も次々と道が舗装されており、ウォーキングもずっと安全で楽しいものになっています。

しまなみ海道のおかげなのか、日本中で起きている変化のせい、今治の町は以前より開放的で国際的に感じられます。外国人も多く、色々なタイプのレストラン、大きなショッピング施設があり、たくさんのイベントが行われています。とても素敵な一戸建てもあちこちで見かけます。賃貸住宅もアパートもたくさんあります。立派な新しい市立図書館もあります。また、今治タオルが高品質で有名な

ブランドになっているのを知ってうれしくなりました。25年前、東京で働いていた時、ある同僚が、結婚する別の同僚にタオルをプレゼントしました。その箱には“Paris”と書いてあり、中身も同様のデザインのタオルでした。その時私は、うっかり、そのタオルセットは、パリと関係ない今治製だと指摘してしまいました。プレゼントの送り主はそんな些細なことを言うんじゃないというように、私をにらみつけたのです。今治製というのは自慢できることでも何でもなかったのです。

もう一つ私にとっての新しい喜びは“FC今治”です。私は昔からサッカーのファンですが、1993年頃はリーグが始まったばかりで、サッカーはまだ余り盛んではありませんでした。今、サッカーの試合を今治で簡単に見られることは本当にラッキーだと思います。来シーズンはしょっちゅう試合を見に行くつもりです。そしてFC今治がリーグ入りするのを大いに期待しています。

さて、昔の今治についていくつか懐かしいことがあります。今治銀座には沢山お店が立ち並んで、およそ何でも賄うことができました。近くには大丸デパートもあり、当時、私は“大丸で見ておいて、銀座で買う”方策をとっていましたが、残念なことにどちらも無くなってしまいましたね。今はイオンモールとフジグランで買い物していますが、将来、銀座が復活して昔の賑わいを少しでも取り戻してほしいと願っています。

現在、今治に再び住み始めてたった3ヶ月ですが、1993年当時よりずっと住み心地が良いと嬉しく思っています。情報通信の発達により、イギリスからのニュースもすぐ入手でき、孤独感を感じることもありません。昔は故国のニュースは、お天気が悪いと何も聞こえない短波ラジオ放送に頼っていて、それ以外は3日遅れのジャパントイムズがあるのみでした。

すべてを総合すると、現在の今治の生活は昔とまったく異質の体験です。25年の間に様々な変化が生じたわけですが、中でもとりわけ目を見張るのは、町全体の雰囲気の変化です。昔は閉鎖的で陰鬱でしたが、今は開放的で、広々として、豊かで、人を温かく迎えてくれているように感じられます。もはや“面白みのない工業の町”と言う表現は、今治にはまったく当てはまりませんね。



訳：神村伸子 (Nobuko Kamimura)